

学校だより

令和4年5月2日発行

校長 松村 利一
〒190-0001
立川市若葉町1-13-1
TEL 042-536-3971
FAX 042-534-6943
HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es21/>

子育てに大切な「共感する姿勢」

校長 松村 利一

私が担任として子ども達の前に立っていた頃から、校長として子ども達に接している今も変わらずに意識していることのひとつが、子ども達の話に共感しながら聞くということです。「そうなんだ。」と声をあげながら、一緒に喜んだり、悲しんだり、時には驚いたりしています。

数年前ある講演会で、臨床発達心理士で発達支援コーディネーターである先生のお話を聞く機会があり、その話の内容が自分の大切にしてきたことと重なっていることを嬉しく思ったことを今でもよく覚えています。その講師の先生は、繰り返し「共感」の大切さをお話してくださいました。思い通りいかず泣きじゃくる子を前に「泣かないの!」「うるさい。泣きやみなさい。」と叫ぶより、まずは「いやだったんだね。悲しいね。」などと声をかけながら話を聞いてあげることが大切だと、具体的な場面を例に出して教えてくださいました。プロセスとしては、「共感→問題提起→提案」と進めることがよいのだそうです。

講師の先生は、話の冒頭で、「子どもを変えようとしなくて、子どもの行動を変えること」を心がけましょうと示唆してくだ

- ・「怒ってしまう」、「泣いてしまう辛さ」に共感
- ・何がこういう状況をつくったのか話し合う
- ・問題を明らかにする
- ・どうすればよいのか提案する

共感

問題提起

提案

さいました。子ども達ひとりひとりの大切な個性や輝きを失うことなく、正しい考えや行動ができるように導いてあげることが大人の役割なのですね。

私はいつも子ども達から「この先生は自分のことを分かってくれている。だから信頼できる。」そう思ってもらいたいと願って教員を続けてきました。保護者の皆様も、子ども達から「お母さん（お父さん）は、自分のことを分かってくれている。信頼できる。大好きだ。」そう思ってもらいたいと願っているはずです。

ある別の方の講演会でしたが、子育てについてとても共感できたお話を紹介します。

親が子どもにしてあげられることは、人生の先輩として「生きる希望を与えてあげること」なのではないかと思っています。親が笑顔で「あなたは本当に素晴らしい子だよ。たくさんの可能性をもっているよ。」「周りの人に感謝をしましょう。あなたがいろいろなことができるのは周りの人が支えてくれているからなんだよ。」と伝え、親がその見本を見せていくことが、親としてまず最初でできることなのではないでしょうか。

不安ばかりをあおってしまったたり、自分が日々のことを嘆いてばかりいたりしないことは難しいことですが、やはりできるだけしないように心がけています。そして、人への不満や悪口を言わない。誰かが悪いことを言ったら、「そうじゃなくて、違う伝え方があるよね。」とお子さんに話してあげることが大人のすべきことだと思います。